

GINGA REPORT 401

No.76
2021.09

そらんぼ四日市 検索

発行日：令和3年9月1日
編集&発行：四日市市立博物館・プラネタリウム
電話：059-355-2700

9月の星空

星図：ステラナビゲータ9/(株)アストロアーツ

惑星の見え方

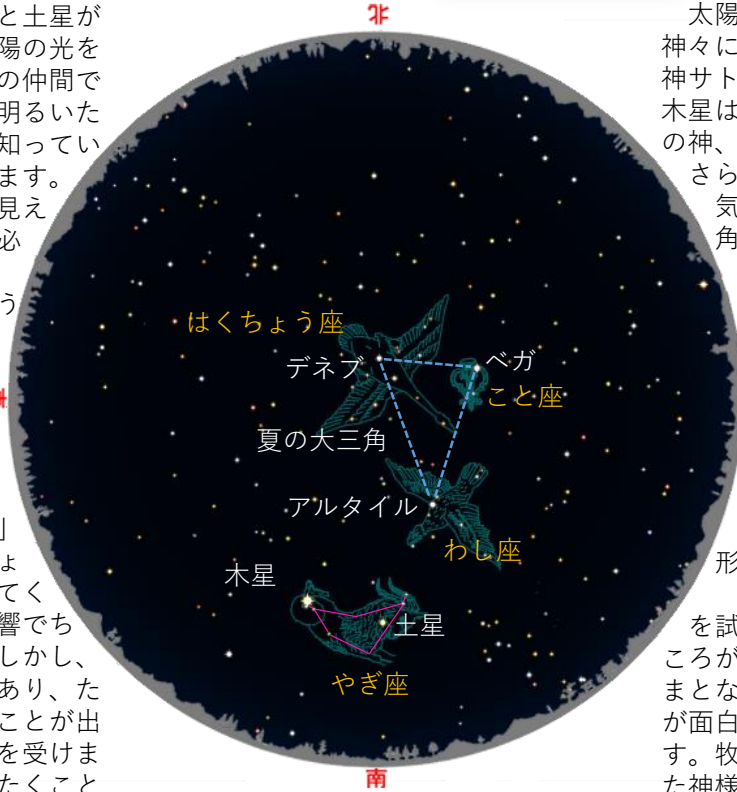
9月15日21時の星図

大神ゼウスの星空

今年の秋は、南の空で木星と土星が明るく輝きます。どちらも太陽の光を反射して輝く、太陽系の惑星の間です。この二つの惑星はとても明るいいため、見える時間帯と方向さえ知っていれば、簡単に探すことができます。しかし毎年同じ時期、方向に見えるわけではないため、注意が必要です。

惑星は「惑う星」と書くように、毎日少しずつ空の中を移動しています。これは、惑星が太陽の周りを回っており、地球との相対的な位置が少しずつ動いているためです。

そこで、惑星の見つけ方として、「惑星はまたたかない」ということを覚えておきましょう。基本的に、宇宙からやってくる星の光は、地球の大気の影響でちらちらと揺らいで見えます。しかし、太陽系の惑星は地球の近くにあり、たくさんの光を地上まで届けることが出来るため、あまり大気の影響を受けません。よってキラキラとまたたくことが少なく、静かに輝いて見えるのです。



太陽系の惑星は、ギリシャ神話の神々にたとえられます。土星は農耕の神サトルヌス（英語名サターン）、木星はゼウスです。ゼウスは全知全能の神、神々の王でもあります。しかし、さらに有名なのはゼウスが生粋の浮気者であるということ。夏の大三角のうち、わし座とはくちょう座は、浮気現場へと向かうゼウスが、正妻にばれないように変身した姿を表したものです。

やぎ座

現在、木星と土星はそれぞれやぎ座のしっぽと顔のあたりで輝いています。やぎ座というと気になるのは、やはりしっぽの形でしょうか。

あるとき、牧神パンが魚に変身を試みたところ、下半身は成功。ところが、上半身は普段のやぎの姿のままとなってしまいました。これを神々が面白がり、星座にしたのがやぎ座です。牧神パンはパニックの語源になった神様ですが、この姿からもおっちょこちょいな性格が伺えますね。

今月の天文トピック 中秋の名月を見よう



中秋の名月とは旧暦の8月15日の月のことで、ススキや団子を飾ってお月見をする風習があります。特に四日市には「お月見どろぼう」といって、子どもたちが周囲の民家にお菓子をもらいに行く地域もあり、非常に身近な天文イベントです。

ここで「中秋」と「仲秋」の違いはご存知でしょうか。最近あまり区別されずに使われている言葉ですが、一つ大きな違いがあります。元々旧暦では7、8、9月が秋とされています。そのうち8月15日は秋のちょうど真中であるため、中秋と言いました。対して仲秋は、旧暦の8月全体を指す言葉です。よって、旧暦8月15日の月と言いたい場合には、中秋が正確な言葉となります。ちなみに中秋の名月を十五夜と呼ぶのも、この旧暦の日付から来ています。

ではなぜ、中秋の名月が他の月よりも愛でられてきたのかというと、それは秋の頃が最も月がきれいに見られるからです。夏は月の位置が低すぎ、冬は高すぎます。ちょうど良い高さで見られるのは春か秋。しかし春は春がすみ、秋は秋晴れというように、天気が適しているのは秋。そこで秋の月が最も美しいとされてきました。

また、中秋の名月は芋名月とも呼ばれ、秋の収穫の時期を喜ぶめでたい月でもあります。今年は9月21日（火）が中秋の名月です。お月見で秋を感じてみませんか。

博物館主催 スターウォッチング

博物館主催きらら号観望会

場所：博物館前市民公園

◇9月20日（月・祝）19：30～21：00

「あと一步の名月を見よう」

◇9月25日（土）19：30～21：00

「巨大惑星を見よう」



編集後記

収穫の秋というと、思い浮かべる作物は栗やきのこ、さつまいもなどでしょうか。しかし中秋の名月の別名となる芋名月の芋は、さつまいもではなく、里芋のことを指しているんだとか。私も満月というと黄色い状態を想像するからか、芋名月のことをさつまいものことだと思っていたことがあります。蜜たっぷりのさつまいもの黄色い断面に見えてきて仕方ないのです。

9月の月

7日  新月

14日  上弦

21日  満月

29日  下弦

※当日受付・参加無料です。
※天候不良時は中止です。(通常3時間前に決定します)
※マスク着用、手指消毒、観望会受付票の記入をお願いいたします。